

季刊

ぴぴっと

秋 号 - No 2 -

平成12年10月30日

発行

ぴぴっと(PPT)研究会

広報づくりで交流の輪

～平成12年8月30日 於北上市北研修センター～

今回、私たちはこの講習会に講師という立場で参加しました。なにぶん会長以外は不慣れなものですから参加者の皆様にはご迷惑をおかけしたところが多々あったのではないかと思います。私たちにとってもいろいろな面で大変勉強になったよい機会となりました。このような場を与えて下さいました北上地区新聞教育研究協議会ならびに参加下さった方々に感謝申し上げます。

実際「PTA新聞づくり」について話を進めて行く中で、具体的な作業も含め特に私たちが伝えたかったことは次の点です。

具体的作業の前に

- ：なるべく多くのPTA新聞を読む
- ：自分たちのテーマを持つ
- ：保護者の立場で新聞をつくる

具体的作業として

- ：テーマに沿った新聞づくり
- ：レイアウト・見出しの重要性

新聞づくりに役立つ新聞スクラップ



新聞は楽しい

沢内村立猿橋小学校PTA 高橋 浩子

数年前、初めて会報委員になり、何気なく読んでいた今までを反省しました。慣れないうちは、あまりの細かい作業に、先輩達が何をしているのか理解できず、夜の時間だけが着々と過ぎていくのでした。

講習会で教えていただいた一部でも、自分のものとし生かしてみよう、見て、読んでもらえる(気にしてもらえる)新聞にしたい、という思いでいっぱいです。

また機会があれば参加してみたいです。

N I E 情 報

第43回全国新聞教育研究大会

全国学校新聞指導者講習

神奈川・横須賀大会

- ・研究主題 「自ら学ぶ・生きる力を
培う新聞教育」
- ・2000年11月10日(金)・11日(土)
- ・会場 横須賀市芸術劇場^ア イド^ポケット
横須賀市立長浦小学校

第25回岩手県新聞教育研究大会東磐井大会

- ・研究主題 「新聞で生きる力をどう育てるか
-新聞が機能して学ぶ力を
育てる授業の実践」
- ・2000年11月22日(水)午後12時40分～
- ・会場 東山町立長坂小学校

NIE全国大会に参加して

韓国の母親パワー ～韓国のNIE事情を聞く～

前号に引き続き、横浜でのNIE全国大会から、韓国のNIE事情について紹介します。お話を聞きしたのは、韓国でNIEの中心になって活動されている小学校教師の方です。

ぴ 教育・スポーツ・宗教等、様々な面で韓国の人たちの熱心さを耳にしますが、そこに韓国人

韓 そのとおりだと思います。例えば韓国ではお母さんたちが子供の教育にとっても熱心で、お母さんたち自身も勉強しています。

ぴ 韓国ではNIEの活動も非常に盛んだと聞きますが、どのようになされているのですか。

韓 多くのお母さんたちがNIEを学び、それを家庭で自分の子供に伝えるという形が主流です。新聞を通して政治や経済など様々な社会の出来事について親子で学んでいます。

ぴ お母さん達はどつやってNIEについて勉強するのですか。

韓 新聞社が主催するカルチャースクールのような勉強会が、あちこちで頻繁に開かれるので、そこに参加して学習しています。また、そこで学習してきた事柄を近所の人たちに有料で教えているお母さんたちもいます。

ぴ それは驚きですね。

韓 韓国のお母さん達もPTA広報のようなものを発行しているのですか。

韓 韓国にはPTA広報はありません。ですから、お母さんたちが直接新聞づくりに参加するということはありません。

ぴ なぜ韓国ではそれほどNIEが広まったのでしょうか。

韓 現在、韓国ではハングル文字が使われています。これは日本語のひらがなに相当するもので、教養のあるなしかかわらず、誰でも読み書きすることができるといふこともあり、国民の多くに浸透したのだと思います。

ぴ こうして見てみると、韓国ではお母さんの存在感がとても大きいように思いますが、家庭の中で父親、母親の役割分担はどのようになっているのですか。

韓 一家の中心は母親で、家計や子供の教育について母親が主導権を握っている場合が多いようです。

ぴ ありがとうございます。私たちの今後の活動に大いに参考になりました。



中央の男性が韓国の季先生です

編集後記

会報「ぴびっと秋号」が漸くできあがりしました。少し広がった活動の輪をこれからもほんの少しずつ大きくして行けたら…。そんな想いで作った第2号です。どうぞお読み下さい。

しんぶんまめちしき

その2

<日刊紙の誕生 - 1 >

明治3年12月8日(西暦1871年1月28日)わが国初の日刊紙が横浜市にあらわれました。西洋紙1枚刷で鉛活字を用いた「横浜毎日新聞」こそ名実ともにわが国近代新聞の祖といつてよいでしょう。(昭和15年11月30日廃刊)

この新聞は、時の神奈川県知事井関盛良のすすめで、島田豊寛・子安峻らが発刊したものです。以後、地方の中心地にぼつぼつ新聞があらわれてきますが、明治5年になって初めて東京に日刊紙が出現します。

(太陽コレクションかわら版新聞より)

